

いずみ学級 生活単元学習指導案

1 単元名 見て！ぼくたちのおもてなし ～ようこそ いずみ苑へ～

2 単元目標

- ・クッキーを作ってプレゼントしたり、お世話になった方を招待してお茶やお菓子を出すおもてなしをしたりすることで、お礼の気持ちを伝える大切さと人のために何かをできる喜びを感じたり、自信をもったりすることができる。
- ・クッキー作りやおもてなしの練習にペアやグループを組んで取り組む中で、友達と一緒に活動する楽しさを感じたり、気付いた友達のがんばりを自分なりに表現したりすることができる。

3 単元の構想

<地域の教材化>

毎年、子どもたちはお世話になった先生にプレゼントと手紙を渡し、お礼をする活動をしている。人に感謝を伝えたり、喜んでもらったりする体験を通して、相手の気持ちを考えながら、より多くの人に喜んでもらいたいという願いをもっている。本単元では、お世話になっている先生にクッキーをプレゼントし、その経験を生かして、昔の遊びを教えてくださいの先生の先生を招き、おもてなしをすることを計画する。まず、学区にある丈山苑で抹茶をいただく体験をする。丈山苑とは、和泉町で生まれた武士・文人である石川丈山が後半生に過ごした京都の詩仙堂をイメージして再現したものである。そこでは、自適に生きた丈山の心を、四季折々の草木を通して感じることができる。そのような丈山苑で、お茶やお菓子の運び方や歩き方を学ぶことで、具体的なおもてなしのイメージをもつことができると考える。

<教材との出会わせ方の工夫>

単元の導入として、昨年度のポテトハウスの方との交流を思い出させる。クッキーをプレゼントして喜んでもらった体験や、一緒に魚釣りゲームをして楽しんでもらった体験を思い出すことで、人のために何かをしてあげたいという思いをもたせる。そして、お世話になっている先生について考える場面を設定し、お礼をする活動を行う。友達と協力をしてプレゼントを用意することで、相手に喜んでもらうために責任をもって最後までがんばる楽しさを感じることができる。また、お世話になっている先生からお礼の手紙をもらったり言葉をかけてもらったりすることで、達成感や喜びを感じ、もっとたくさんの人に何かをしてあげたいという気持ちをもつことができると考える。その経験をもとに、昔の遊びを教えてくださいの先生にお礼をしようという活動を設定し、感謝の気持ちを伝えるおもてなしをしようという意欲を高められるようにしていく。

<体験活動やG T（ゲストティーチャー）の活用>

自分たちでがんばって作ったクッキーをプレゼントして相手に喜んでもらう体験は、達成感や次時への意欲へとつながっていくと考える。そこで、子どもたちが感じる「もっとたくさんの人に何かをしてあげたい」という思いを実現するために、丈山苑で抹茶やお菓子をいただく体験をし、相手をもてなす方法を学ぶ。笑顔でお茶を出してもらったり、優しく「どうぞ」とお茶を出してもらったりする体験をすることで、お茶をそっと運んだり笑顔で接したりして、相手が喜ぶおもてなしを自分たちもやりたいという思いにつなげていく。

<発信の仕方の工夫>

友達と一緒に練習してきたおもてなしを昔の遊びの先生を招待して発表することで、次は、自分たちの家の人にもがんばる姿を見てもらいたい、家でもやってみたいと思うだろう。そこで、授業参観で家の人を招待して自分たちのがんばる姿を発表し、ほめられたり励まされたりして、自信をもつことができる場を設定する。

4 単元構想図 (全40時間)



(3) 展開

	発問・指示		子どもの活動		◎全体へのはたらきかけ	○個への支援	手立て②				
	A (2年)	B (2年)	C (4年)	D (5年)	E (6年)	F (5年)	G (3年)	H (2年)	I (1年)	J (1年)	
見つける	<p>1 おもてなしのポイントとめあてを確認しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言ってお茶を置く ・友達の良いところを見つける ○自分のめあてを思い出せるよう始めの文字を言って促す。(イ) 		<p>◎おもてなしのポイント「相手を見る」「笑顔(にっこり)」「どうぞと言う」と、めあてを書いたカードを黒板にはる (ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言ってお茶を置く ・友達の良いところを見つける ○めあてを書いたカードを見せて一緒に言う。(イ) 		<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て「どうぞ」と言ってお茶を置く ・友達の良いところを見つける ○自分のめあてを思い出せるよう始めの文字を言って促す。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て「どうぞ」と言ってお茶を置く ・友達の良いところを見つける ○「～です」と発表できるよう声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」や「ありがとう」を言う ・友達の良いところを見つける ○めあてを書いたカードを見せて一緒に言う。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言ってお茶を運ぶ ・嬉しかったことを見つける ○「～です」と発表できるよう声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言ってお茶を運ぶ ・嬉しかったことを見つける ○めあてを書いたカードを見せて一緒に言う。(イ) 		
深める・広げる	<p>2 おもてなしの練習をしよう</p>										
	前半：客の係 (T1)					前半：運ぶ係 (T2)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Jからお茶を出されたら「ありがとう」と言う ○言葉が出ないときは「どんな気持ちかな」と言って促す。(イ) ○相手の顔を見て笑顔で言うように促す。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・座布団を準備する ○自分で置くことができるように、目印のシールを付けておく。(ア) ・児童Iからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Iがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Gからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言う ○言葉が出ないときは「どんな気持ちかな」と言って促す。(イ) ○相手の顔を見て言うように促す。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶とお菓子を置くシートを準備する ○自分で置くことができるように、目印のシールを付けておく。(ア) ・児童Fからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Fがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(ア) ・お菓子を作る練習をする ○意欲が持続するように、順番を待つ間、お菓子を作る練習をする。(ア) ○材料を混ぜたら児童Eに「焼いてください」と頼むように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童B・Dに声をかけ、客間の準備をする ○自分から声をかけられるように、仕事の分担を示したカードを提示する。(ア) ・児童Hからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Hがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(ア) ・お菓子を作る練習をする ○意欲が持続するように、順番を待つ間、お菓子を作る練習をする。(ア) ○自分で考えて活動できるように、手順を示したカードを用意する。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童G, H, I, Jに声をかけ、お茶とお菓子の準備をする ○仕事を分担して行うように声をかける。(イ) ・湯呑にお茶を入れる ○お茶を入れたら、運ぶ友達に「お願いします」と声をかけるように促す。(イ) ・お茶をこぼさないように歩いたり、両手でそっと置いたりする ○「そっと」「ゆっくり」「両手」など一つ一つ丁寧に取り組むように声をかける。(イ) ○同じグループの人が活動している様子に注目するように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・皿にお菓子をのせる ○箸を使って丁寧に置くように声をかける。(イ) ・相手の顔を見て「どうぞ」と言ってお茶を置く ○「見る」「そっと」「ゆっくり」など一つ一つ丁寧に取り組むように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Iが運ぶ時に、お盆に皿をのせる仕事を手伝う ○皿をのせたら「お願いします」と児童Gに言ってお盆を渡すように声をかける。(イ) ・相手を見て「どうぞ」と言う ○お茶を出す際に相手の顔を見て「どうぞ」と言うよう促す。(イ) ○相手に伝わる声の大きさを言うように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お盆に皿をのせる ○皿をのせたら「お願いします」と児童Gに言ってお盆を渡すように声をかける。(イ) ○皿ののせ方を示した写真を用意する。(ア) ・ゆっくり優しくお茶を運ぶ ○相手を意識できるよう、「どのように運んだらいいかな」と声をかける。(イ) ○動作の手順を忘れてしまった際には手順カードを見せて自分で次の動作を思い出せるようにする。(ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備してもらったお茶とお菓子を運ぶ ○お盆を受け取ったら「ありがとう」と言うように声をかける。(イ) ・お茶やお菓子を笑顔で運ぶ ○こぼさないようにお茶やお菓子をよく見て歩くよう声をかける。(イ) ・「どうぞ」と言ってお茶を置く ○笑顔で「どうぞ」と言うように声をかける。(イ) 	
	後半：運ぶ係 (T2)					後半：客の係 (T1)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Bが運ぶ時に、皿にお菓子をのせる仕事を手伝う ○皿にのせたら「お願いします」と児童Eに言ってお盆を渡すように声をかける。(イ) ・お茶やお菓子を笑顔で運ぶ ○こぼさないように歩くよう声をかける。(イ) ・「どうぞ」と言ってお茶を置く ○笑顔で「どうぞ」と言うように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・皿にお菓子をのせる ○箸を使って丁寧に置くように声をかける。(イ) ・相手の顔を見て「どうぞ」と言ってお茶を置く ○下を向いてしまった際は、相手の顔を見るよう促す。(イ) ○動作の手順を忘れてしまった際には手順カードを見せて自分で次の動作を思い出せるようにする。(ア) ○相手に合わせて会釈を返すよう声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備してもらったお茶とお菓子を運ぶ ○お盆を受け取ったら「ありがとう」と言うように声をかける。(イ) ・お茶をこぼさないように運ぶ ○こぼさないようにお茶やお菓子をよく見て歩くよう声をかける。(イ) ・「どうぞ」と言ってお茶を置く ○動作を丁寧に言うように「見る」「両手」など動作について一つずつ声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お盆に皿をのせる ○皿をのせたら「お願いします」と児童Bに言ってお盆を渡すように声をかける。(イ) ○皿ののせ方を示した写真を用意する。(ア) ・相手の顔を見て「どうぞ」と言ってお茶を置く ○「そっと」「ゆっくり」「両手」など一つ一つ丁寧に取り組むように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童A, B, C, Dに声をかけ、お茶とお菓子の準備をする ○仕事を分担して行うように声をかける。(イ) ・湯呑にお茶を入れる ○お茶を入れたら、運ぶ友達に「お願いします」と声をかけるように促す。(イ) ・お茶を運び、相手の顔を見て礼をしたり「どうぞ」と声をかけたりする ○動作の手順を忘れてしまった際には手順カードを見せて自分で次の動作を思い出せるようにする。(ア) ○自分のことではいっばいになってしまった際は、相手の反応をよく見るよう声をかける。(イ) ○同じグループの人が活動している様子に注目するように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Dからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Dがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(ア) ・お菓子を作る練習をする ○意欲が持続するように、順番を待つ間、お菓子を作る練習をする。(ア) ○自分で考えて活動できるように、手順を示したカードを用意する。(ア) ・座布団を片付ける ○児童Fの声かけを聞いて自分から片付けることができたら、大きいこぼめる。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Cからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Cがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(イ) ・お菓子を作る練習をする ○意欲が持続するように、順番を待つ間、お菓子を作る練習をする。(ア) ○自分で考えて活動できるように、手順を示したカードを用意する。(ア) ・お茶とお菓子を置くシートを片付ける ○児童Fの声かけを聞いて自分から片付けることができたら、大きいこぼめる。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Eからお茶を出されたら「ありがとう」と言う ○言葉が出ないときは「どんな気持ちかな」と言って促したり、言葉のカードを見せたりする。(イ) ○相手に伝わる声の大きさを言うように声をかける。(イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Bからお茶を出されたら「ありがとうございます」と言って礼をする ○児童Bがお茶を運ぶ様子に注目できるよう「見る」「にっこり」「どうぞ」の見るポイントを書いたカードを提示する。(ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Aからお茶を出されたら「ありがとう」と言う ○言葉が出ないときは「どんな気持ちかな」と言って促す。(イ) 	
振り返る	<p>3 振り返りをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にっこりできた」「運んでくれてありがとう」 ○できたことが発表できるように、めあてを思い出すように声をかける。(オ) 		<p>◎自分だけでなく同じグループの友達の頑張ったことも発表するように伝える(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言えた ・運んでくれたてありがとう ○やったことを思い出し、話せるように、始めの文字を言って促す。(オ) 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童Fを見て「どうぞ」が言えた ・児童Fがそっとお茶を置いてくれて嬉しかった ○友達の頑張りを発表できるよおもてなしのポイントを思い出すように声をかける。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て礼をした「どうぞ」と声をかけたりした ・児童Hが「どうぞ」と言ってくれて嬉しかった ○友達の頑張りを発表できるよおもてなしのポイントを思い出すように声をかける。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て礼をした「どうぞ」と声をかけたりした ・児童Dがほくを見て「どうぞ」と言ってくれて嬉しかった ○友達の頑張りを発表できるよおもてなしのポイントを思い出すように声をかける。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童Cを見て「どうぞ」が言えた ・児童Cがにっこりしてくれたから嬉しかった ○児童Cの頑張りを発表できるように、「にっこり」「どうぞ」のポイントを思い出すように声をかける。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞ」と言えた ・優しく置いてくれてうれしかった ○やったことを思い出し、話せるように、始めの文字を言って促す。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にっこりできた」「児童Bがここにきて「どうぞ」と言ってくれてありがとう」 ○友達の頑張りを発表できるように児童Bがどのように運んでいたか具体的に声をかける。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にっこりできた」「児童Aがここにきて嬉しかった」 ○できたことが発表できるように、めあてを思い出すように声をかける。(オ)

(4) 評価

- ・各自のめあてを達成することができたか、活動の様子や振り返りの発言から判断する。
- ・ペアの友達のがんばりを見つけることができたか、活動の様子や振り返りの発言から判断する。

5 本時の指導 (35/40)

(1) 目標

おもてなしの練習や準備をグループで行う活動を通して、グループの友達同士で話し合ったり、助け合ったりし、友達のがんばりやよさを見つけることができる。

(2) 個別のめざす子どもの姿

	めざす子どもの姿
A 2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶をこぼさないように運び、笑顔で「どうぞ」と言うことができる。 ・仲の良い児童Jがお茶を運ぶ様子を見て、上手にできたことを言葉で発表することができる。
B 2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て「どうぞ」と言ってお茶を置き、相手の様子を見て笑顔で礼をすることができる。 ・仲の良い児童Iにお茶を運んでもらった感謝の気持ちを発表することができる。
C 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶をこぼさないように運び、相手を見て「どうぞ」と言うことができる。 ・仲の良い児童Gがお茶を運ぶ様子を見て、上手にできたことを言葉で発表することができる。
D 5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜んでくれるように、こぼさないように歩いたり、背筋を伸ばして座り、相手を見てお茶を置いたりすることができる。 ・同じ学年の児童Fの活動の様子を見て、がんばっていたところを発表することができる。
E 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見てから礼をしたり「どうぞ」と声をかけたりすることができる。 ・低学年の子がこぼさないように運べるように声をかけたり、がんばりを認めたりすることができる。
F 5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜んでくれるように、こぼさないように歩いたり相手の顔を見てから礼をしたりすることができる。 ・困っている低学年の子を助けたり、がんばっている友達をほめたりすることができる。
G 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやったおもてなしができるように、こぼさず丁寧に茶を運んだり顔を見て声をかけたりすることができる。 ・仲の良い児童Cがお茶を運ぶ様子を見て、上手だったところや思ったことを発表することができる。
H 2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て、伝わる声の大きさに「どうぞ」や「ありがとう」を言うことができる。 ・仲の良い児童Eがお茶を運ぶ様子を見て、上手にできたことを発表することができる。
I 1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に喜んでもらえるように笑顔で優しくお茶を運ぶことができる。 ・いつも気にかけている児童Bがお茶を運ぶ様子を見て、感謝の気持ちを発表することができる。
J 1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔でお茶を運んだり「どうぞ」と言ったりすることができる。 ・仲の良い児童Aがお茶を運んでくれた様子を見て、うれしい気持ちを言葉で発表することができる。